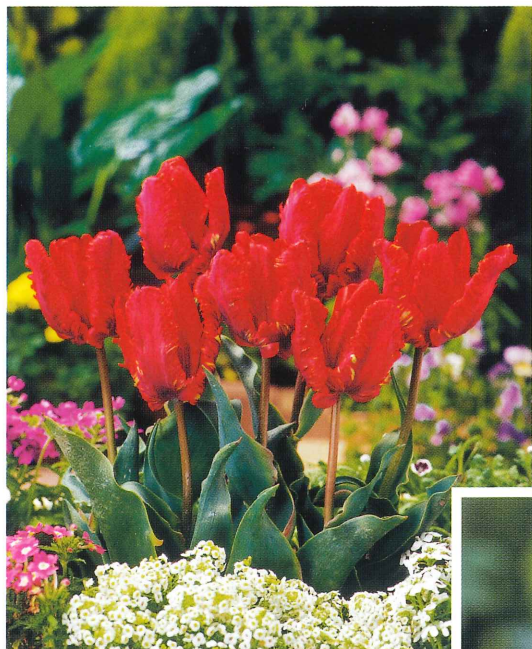


チューリップ 四季だより



▲「チューリップ『ロココ』」/
T. 'Rococo' (パーロット咲き)
2003年ジャパン・フラワーバルブ・
オブ・ザ・イヤー賞受賞品種。



▲「チューリップ『バレリーナ』」/
T. 'Ballerina' (ユリ咲き)
2004年ジャパン・フラワーバルブ・オブ・
ザ・イヤー賞受賞品種。

チュウリップ賛歌

富山短期大学名誉教授

金岡 トモコ

サイタ サイタ

チュウリップ ノ

ハナ ガ、

ナランダ

ナランダ

アカ シロ キイロ、

ドノ ハナ ミテ モ

キレイ ダ ナ。

チュウリップといえば、大方の人は、この童謡を、身振りを思い出されるのではなからうか。

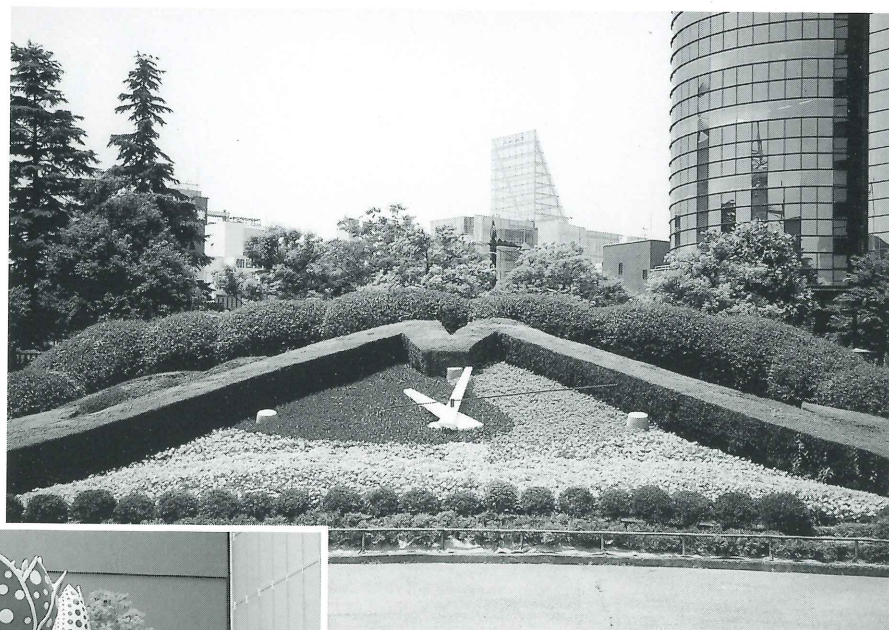
この童謡は、教育音楽協会作詞、井上武士作曲として、昭和七年『エホンショウカ』に収められている。

ところが、山住正己著『子どもの歌を語る』（岩波新書）によれば、作詞者をめぐって、一九八〇年代に法廷で争われたという。そして、長年著作権をもっていた日本教育音楽協会は敗訴したといわれている。

実作詞者近藤宮子さんは、父の国文学者・藤村作にすすめられて、一九三一年につくったという。

さらに、この歌が広くうたわれたのは第二次大戦後であると山住氏は推測している。その根拠として「ド・レ・ミ ド・レ・ミ」という単純な旋律のはじまり、色はいろいろあっても、どの花もきれいだという、戦後民主主義の高揚期の思想を反映しているというのだ。確かに、未来を担う子どもたちに、なんとしても民主主義を浸透させたいという為政者の思いがこの童謡を引き寄せたのであろう。あの時代の空気を伝える鍵をもっていたとは驚きである。

ところで、博物学者荒俣宏氏の随筆『トルコ^{トルコ}のターバン』によれば、ルネッサンス期最大の博物学者コンラート・ゲスナーは、一五六一年はじめてチュウリップを世に紹介したという。それまではチュウリップはまったく未知の植物だった。トルコからヨーロッパにもたらされたのだけは確かだが、原産地がどこか、よくわからない。まるで宇宙から飛来したような謎の植物である、と論考



▲県庁前公園の花時計

た、チュウリップ狂熱の原因は、今でも謎とされている。その最盛期に、ある種類のチュウリップの球根一個が一等地にある家一軒が買える値段で売買される、とんでもないバブル現象が起きたという。レンブラントが描いた、春の女神《春のフロラ》も、ヨ



▲松本市美術館前のモニュメント

している。チュウリップの当て字として、ヘトルコ^{トルコ}のターバン^{ターバン}あるいはヘダルマチアの帽子^{帽子}を挙げており、形として似ていることからきていると推論している。

やがて、ヨーロッパ中に広く愛され人々の心を魅了し狂わせていく。

チュウリップ物語のなかで、一六三〇年代オランダを舞台にして起こ

ーロッパを狂わせたチューリップに、
いかばかり嘆いたことであろう。

ところで、富山県置県百年の記念
事業として県庁前公園に設置された
花時計の、文字盤の花壇デザインは、
毎年県民から応募された多数の作品
のなかから選ばれる。今年も八百点
近い応募があった。毎年感じること
は、チューリップがモチーフになる
ことが多いということだ。県花だか
ら当然だろう。しかし、それ以上に
創造力をかきたてるものがあるとい
うことだ。

夏目漱石も、セント・ジューズ
公園で、「黄と藤色のチューリップ
がニヨキニヨキと出て居るのが大変
美しい」と留学日記に記している。



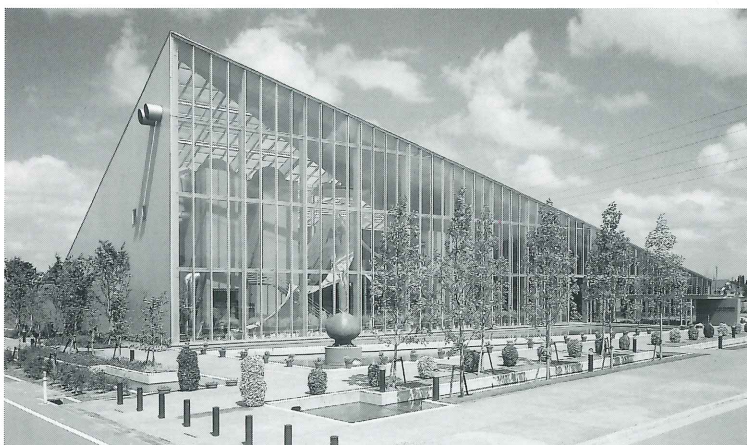
▲砺波チューリップ公園

また、この九月
松本市美術館を見
学したが、前庭に
水玉模様で独特の
世界を展開してい
る草間弥生のチュ
ーリップのモニユ
メントが曲線を描
いていた。花言葉
《完全な恋人》と
して、見る人の心
を魅了してやまな
い、この花の秘密
はなにだろう。



▲新しい構成の園内の様子

七年前チューリップ四季彩館が開
館した日家族で訪れた。公園は大き
く拡がり、美術館が配され、小川が
流れ、水車が回っていた。チューリ
ップがまるでパッチワークのように
配されていた。大人も懐かしい気分
で、のんびり散策できる時空間を提
供しているという意味において、こ
れからの時代に求められている公園
になったことを歓迎したい。できれ
ばオランダのキューケンホフ公園の
ように、砺波散居村そのものを一大
チューリップ公園として見立てるこ
とはできないものだろうか。



▲チューリップ四季彩館

【略歴】

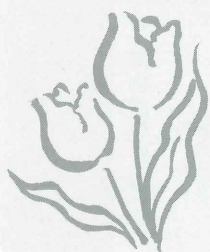
かなおか ともこ



一九三八年、富山県生まれ（富
山市在住）

日本女子大学家政学部住居学
科卒業後、一九五九年日本住宅
協会編集部、一九六〇年光文社
編集部勤務。一九六六年富山女
子短期大学非常勤講師を経て常
勤となり、一九九五年教授、一
九九八年生活学科長、二〇〇〇
年経営情報学科長。現在富山短
期大学名誉教授

●主な著書：「富山県女性史」（共
著）、「とやま住まい考」（共著）
「住まいと街なみ百年のあゆみ」
（編著）、論文「富山のくらし
研究」ほか



『チューリップ・インスピレーションの泉の四〇〇年』

〈パートVI〉

〈De tulip (オランダ・リッセ市チューリップ博物館発行)より〉

第七期 一九〇〇年〜一九五〇年

(前号のつづき)

戦争は球根市場に多大な悪影響を及ぼしました。市場の多くが目標に到達できず、輸出額も一九一四年には、ほとんど半分にまで落ち込みました。しかし、戦争が終わり、平和が訪れるとすぐに再び活気を取り戻し、球根産業にとって、おそらくそれまでで最高の繁栄期を迎えたのでした。

栽培面積は急速に増大し、一九二四年には、「一般組合」にかなり近いチューリップ単独の利益助成組合が設立されました。しかし、そこでは、再び別の問題が生じてきたのでした。

それまでもすでに兆候はありましたが、その時生産過剰が差し迫った問題となっていました。

― へ良く理解するために、球根栽培農家は小さい球根を一個植えるところから、新しい二つの小球がついた販売用の大きい球根が一個収穫できます。翌年、その二つの小球を植えて二年ほど植え付けと収穫を繰り返すと販売用の球根に育ちます。こうして植えたものは、次の年に大きくなるのです。―

この頃には市場において売買が可

能となり、輸出業者はこれまでで最も繁栄し、同時に市場も栄えました。しかし、当然のことながら、毎年百パーセントの球根の生育はあり得ません。

生産過剰な状態は非常に急進的ではありましたが、その後も起こるであろう問題であり、典型的なものと言えます。そして、戦後、球根産業における状況が好転してくると、フロニンゲン（オランダ北東部の州）やフリースランド（北部）、ゼーランド（南西部）、ブラーバンド（ベルギー南部）の多くの農民が球根産業に引き寄せられ、品質の良い球根が自信を持って販売されるようになりました。そして、栽培圃場は急速に増加していきました。

一九二九年に起こった世界恐慌によって経済危機が訪れると、一九三〇年にはヨーロッパやアメリカ合衆国に急激な経済的衰退がみられました。それによって、球根の需要は減少し、莫大な量の球根の余りが生じたのでした。

組織が編成され、



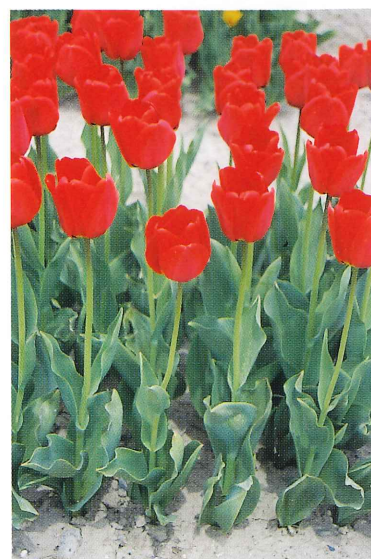
▲チューリップ「ゴールデン・オックスフォード」
(ダーウィン・ハイブリッド群) 1959年オランダで育成。

球根産業は立て直しが図られました。生産調整や過剰分の引渡しと処分も行われたのでした。

しかし、数年後、再び生産過剰となり、多くの犠牲が払われ、栽培を断念する農家も出てきました。そしてまた、経済の流れは好転し、再び上向きに転じました。

この間、球根栽培は確実に発展し、それまでの球根地帯やそのすぐ周辺のハーレム北部でも球根生産は順調な伸びをみせ、新品種も生まれるようになりました。次の新品種が北部のアンナ・パウロウナ地方で生まれることを懸念した南部の栽培農家の人々は、大勢「北部」へ開拓に行ったのでした。

三十年にわたる試行錯誤の末、実に素晴らしい球根ができるようになった。



▲チューリップ「アペルトーン」(ダーウィン・ハイブリッド群) 1951年オランダで育成

ったのは、この地域が砂丘の後方でチューリップが生育するのに最もふさわしい砂地であったからです。

そして、品種改良が盛んに行われるようになり、市場に晩生咲きの「ダーウィン」に対して新しい系統である「メンデル・チューリップ」が出現しました。それらは長い間、対をなすものとして扱われていましたが、開花期が異なるため、両方とも順調な伸びをみせていました。

その後、少々劣性ではありましたが、成育が旺盛な系統として「トライアンフ・チューリップ」が出現します。しかし、そのうち球根が市場に大量に出回るようになったため、商品全ての登録化が進められるようになり、品種登録も規制され始めます。花卉球根栽培に関する一般組合は、王立園芸協会(RHS)と提携し、世界の伝達機関の協力を得て、最初の「チューリップ品種分類リスト」が一九三八年にRHSから発行されました。

しかし、その後再び悲惨な時代を

迎えます。第二次世界大戦の勃発によるものです。市場は当然のことながら規制され、自由化されていた分野も同様でした。いわゆる「飢餓の冬」(一九四四年から一九四五年の冬、ドイツ占領下において燃料と食糧供給が断たれた)と呼ばれる困窮人々まで出てきました。

しかし、ある出来事がきっかけで全ての風向きが変わります。D・W・レフエーバー氏が一九四一年に取引所で新しい系統を紹介します。「ダーウィン・ハイブリッド」です。見事に大きい花、完璧な形、強健な茎。球根産業は戦時中も息を続けていたのです。いや、それ以上に発展したのではないのでしょうか？ 確かに戦後に同系統の品種が次々と現われることになりました。

オレンジがかった赤、深い赤、黄色などといった様々な色等珍しい品種が出てきました。その中には、それまでの成功の記録がすべて塗り替えられたといわれた品種「アペルトーン」も含まれていました。やがて世界は復興に向かい、球根業界も例外ではありませんでした。その動きはとても活発なものでした。

一九四七年四月、サセンハイム近くのベネブロックにおいて、オランダで初めて花車によるパレードが行われました。

また、一九四八年にはキューケンホフで全国球根展示会が開催されました。いずれもオランダでは、国内最大級の観光イベントとして今日まで続いています。

球根は大衆化し、チューリップがオランダの象徴として定着していったのです。

〈次号へつづく〉



▲花車のパレード

(チューリップ写真提供/富山県農業技術センター野菜花き試験場)



▲キューケンホフ公園



「第九回国際花卉球根シンポジウム」

第九回国際花卉球根シンポジウムが、二〇〇四年四月十九日から二十二日までの四日間、新潟市の朱鷺メッセで開催されます。

一九七〇年、オランダで、十四カ国百六十名の花卉球根を研究対象とする研究者が集まり、第一回国際花卉球根シンポジウムが開催されました。それ以後、数年ごとに国際園芸学会の主催で開催されており、第九回目となる今回、アジアで初めて、日本で開かれることとなりました。

このシンポジウムは、花卉球根の研究に携わる世界各国の専門家が集まり、最新の研究成果を発表し、討論し合い、互いに情報を交換するというユニークな国際シンポジウムとして高く評価されています。今回も、海外二十数カ国から多数の研究者が集まり、花卉球根のすべての分野にわたり、口頭又はポスターによる研究発表が行われます。

そのほか最新の話題に関する講演が行われるほか、会期中には新潟県の、会期後には富山県のチューリップの球根生産地と球根切り花産地を視察する周遊旅行も組み込まれています。



▲朱鷺メッセ(新潟市)

このシンポジウムを通して、日本の球根や球根切り花の生産に関する研究成果と栽培の実態を、世界の研究者に広く紹介することが目的とされています。また、海外から参加する研究者に接して、最新の情報を得ると同時に交流を深める良い機会です。これは、研究者にとって、そして、この分野の産業界全体にとっても、日本の球根生産や球根切り花栽培の新しい展望を得る絶好の機会となることでしょう。

なお、栽培農家の方々や産業界の関係者のため、開会式当日の午後には、実際栽培に役立つような研究発表を集め、別途、この日のみの参加も受け付けることにしています。午前の基調講演から同時通訳付きで聴くことができます。

【第九回国際花卉球根シンポジウム】

【日程】

二〇〇四年四月十九日～二十二日

〈四月十九日(月)〉

【午前】

・開会式

・基調講演

「世界における球根および球根切り花生産の現状と将来展望」

J・C・M・Buschman

(オランダ国際球根センター)

「日本における球根および球根切り花生産の歴史と発展」

大川清(静岡大学)

「分子マーカーに基づくユリ属ならびに近縁植物群(ユリ科)の系統と分化パターンの解析」

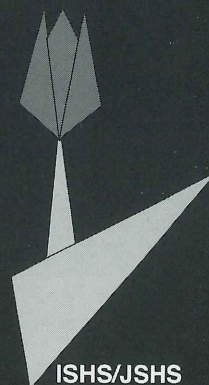
河野昭一(京都大学名誉教授)

【午後】口頭発表

SECOND ANNOUNCEMENT AND CALL FOR PAPERS

IXth International
Symposium
on
Flower Bulbs

19-22 April 2004
Niigata, Japan



〈四月二十日(火)〉

【午前・午後】口頭発表

〈四月二十一日(水)〉

【午前・午後】エクスカージョン
(新潟県内球根・球根切り花産地)

〈四月二十二日(木)〉

午前・午後 口頭発表・閉会式

【ポストシンポジウムツアー】

とき：四月二十三日(金)

富山県のチューリップ産地見学、富山県農業技術センター野菜花き試験場、となみチューリップ公園(チューリップフェア)を見学。

〈問合せ先〉

九州大学大学院農学研究院

大久保 敬

電話/FAX 〇九一六四二二八二七

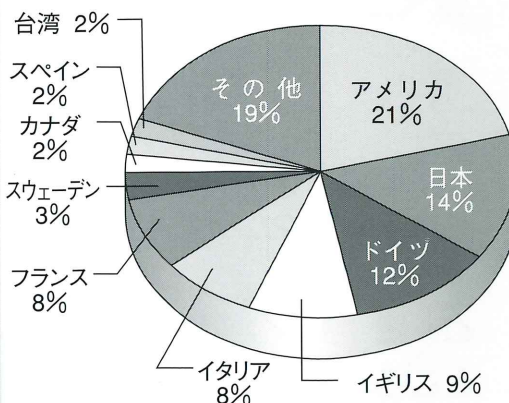
E-mail:hokuboo@agr.kyushu-u.ac.jp

海外 News

『オランダの球根生産と輸出先』

オランダの球根栽培面積は約二万一千ヘクタール（二〇〇一年）で、チューリップの栽培面積はその約半分です。一方、球根栽培がオランダの農業全体に占める割合は二％強程度にすぎません。また、球根収量の約四分の三が輸出用となっています（二〇〇〇年）。

◎オランダの主な球根輸出先割合（輸出額）



国内 News その2

『04年ジャパン・フラワー・オブ・ザ・イヤー賞 チューリップ バレリーナ』

オランダ国際球根協会では、04年ジャパン・フラワー・オブ・ザ・イヤー賞をチューリップ、バレリーナ（表紙写真）に決定しました。バレリーナはオランダ色のユリ咲きの品種で、背丈は四十五センチ、開花期は四月中旬から四月下旬です。チューリップには数少ない芳香性の品種であり、国内でも人気の高い品種です。

同協会では、毎年、この賞を選定しており、オランダの球根輸出業者

に対して受賞品種の品質向上、国内の小売店等への普及、そして、消費者には主要園芸雑誌などでその品質を認知してもらい利用促進を図ることを目的に、日本以外でも実施されています。

ちなみに、03年はチューリップ・ロココ（表紙写真）でした。

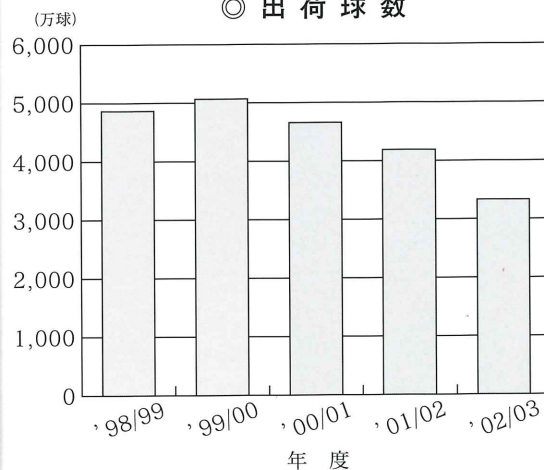


県内 News

◎出荷状況

年度	球数(球)	面積(a)	反収(球)
1998/1999	48,011,750	22,750	21,104
1999/2000	50,062,500	21,901	22,859
2000/2001	46,275,548	20,267	22,833
2001/2002	41,945,250	18,101	23,173
2002/2003	33,510,250	16,845	19,893

◎出荷球数



チューリップの年次別出荷状況（富山県）



チューリップ四季彩館
からのお知らせ

 クリスマス 展示
『季節のフラワーガーデン』
－シクラメンの庭－

季節のフラワーガーデン第5弾。シクラメン約15品種350鉢でにぎやかに彩る宮殿のクリスマスをお楽しみください。

と き：11/21(金)～12/23(火)
ところ：チューリップ四季彩館テラス



▲平成14年度クリスマス展示



チューリップ四季彩館
TONAMI TULIP GALLERY

2003年11月発行
(財)砺波市花と緑の財団 〒939-1381 富山県砺波市中村100番地の1
TEL 0763-33-7716・FAX 0763-33-0090
URL <http://www.tulipfair.or.jp/>